



エクステンション モビリティ (Extension Mobility)

- [エクステンション モビリティの概要, 1 ページ](#)
- [Extension Mobility の前提条件, 1 ページ](#)
- [エクステンション モビリティの設定タスク フロー, 2 ページ](#)
- [エクステンション モビリティの連携動作と制限事項, 19 ページ](#)
- [エクステンション モビリティのトラブルシューティング, 23 ページ](#)

エクステンション モビリティの概要

Cisco Extension Mobility により、ユーザは、お持ちのシステムのその他の電話機から一時的にラインアピアランス、サービス、スピードダイヤルなどの電話機の設定にアクセスできるようになります。例えば、複数の従業員で単一の電話を使用しているような場合、個々のユーザが電話機にログインし、他のユーザ アカウントの設定に影響を及ぼさずに自分の設定にアクセスできるよう、エクステンション モビリティを設定できます。

Extension Mobility の前提条件

- 到達可能な TFTP サーバ。
- Extension Mobility 機能がほとんどの Cisco Unified IP Phone に拡張されている。電話のマニュアルを参照して、Cisco Extension Mobility がサポートされていることを確認する。

エクステンション モビリティの設定タスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	電話機能一覧の生成	エクステンション モビリティ機能をサポートするデバイスを特定するためにレポートを生成します。
ステップ 2	エクステンション モビリティサービスの有効化, (3 ページ)	
ステップ 3	Cisco Extension Mobility 電話サービスの設定, (3 ページ)	ユーザが後でエクステンション モビリティにアクセスするために登録できる、エクステンション モビリティ IP 電話サービスを設定します。
ステップ 4	ユーザのエクステンション モビリティ デバイス プロファイルの作成, (4 ページ)	エクステンション モビリティ デバイス プロファイルを設定します。このプロファイルは、ユーザがエクステンション モビリティにログインするときに物理デバイスにマッピングするバーチャルデバイスとして機能します。この物理デバイスは、このプロファイルの特性を引き継ぎます。
ステップ 5	ユーザへのデバイスプロファイルの関連付け, (12 ページ)	ユーザが別の電話機から設定にアクセスできるように、デバイスプロファイルをユーザに関連付けます。物理デバイスを関連付けるのと同じ方法で、ユーザにユーザデバイスプロファイルを関連付けます。
ステップ 6	エクステンション モビリティへの登録, (13 ページ)	エクステンション モビリティ サービスに IP 電話とデバイスプロファイルを登録して、ユーザがエクステンション モビリティにログインし、使用し、ログアウトできるようにします。
ステップ 7	クレデンシャル変更 IP 電話サービスの設定, (14 ページ)	ユーザが自身の電話機で PIN を変更できるようにするには、変更クレデンシャル Cisco Unified IP Phone サービスを設定し、ユーザ、デバイス プロファイル、または IP 電話を、変更クレデンシャル電話サービスに関連付ける必要があります。
ステップ 8	Extension Mobility (EM; エクステンション モビリティ) のサービス パラメータの設定, (15 ページ)	(任意) エクステンション モビリティの動作を変更するには、サービス パラメータを設定します。

エクステンション モビリティ サービスの有効化

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスの有効化 (Service Activation)] を選択します。
 - ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リストからパブリッシャ ノードを選択します。
 - ステップ 3 必要に応じて、次のサービスを有効化します。
 - a) [Cisco CallManager]
 - b) Cisco Tftp
 - c) Cisco エクステンション モビリティ
 - ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。
 - ステップ 5 [OK] をクリックします。
-

次の作業

[Cisco Extension Mobility 電話サービスの設定, \(3 ページ\)](#)

Cisco Extension Mobility 電話サービスの設定

ユーザが後でエクステンション モビリティにアクセスするために登録できる、エクステンション モビリティ IP 電話サービスを設定します。

はじめる前に

[エクステンション モビリティ サービスの有効化, \(3 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話サービス (Phone Services)] を選択します。
 - ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
 - ステップ 3 [サービス名 (Service Name)] フィールドに、サービスの名前を入力します。
 - ステップ 4 [サービス URL (Service URL)] フィールドにサービス URL を入力します。
形式は `http://<IP Address>:8080/emapp/EMAppServlet?device=#DEVICENAME#` です。IP Address は、Cisco Extension Mobility が有効化され実行される Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスです。

例 :

http://123.45.67.89:8080/emapp/EMAppServlet?device=#DEVICENAME#

ステップ 5 [サービス タイプ (Service Type)] フィールドで、サービスが [サービス (Services)]、[ディレクトリ (Directories)]、または [メッセージ (Messages)] ボタンにプロビジョニングされるかどうかを選択します。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

次の作業

[ユーザのエクステンション モビリティ デバイス プロファイルの作成, \(4 ページ\)](#)

ユーザのエクステンション モビリティ デバイス プロファイルの作成

エクステンション モビリティ デバイス プロファイルを設定します。このプロファイルは、ユーザがエクステンション モビリティ にログインするときに物理デバイスにマッピングするバーチャルデバイスとして機能します。この物理デバイスは、このプロファイルの特性を引き継ぎます。

はじめる前に

[Cisco Extension Mobility 電話サービスの設定, \(3 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [デバイス プロファイル (Device Profile)] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの作業を実行します。

- 既存のデバイス プロファイルを変更するには、検索条件を入力して [検索 (Find)] をクリックし、結果のリストから既存のデバイス プロファイルを選択します。
- 新しいデバイス プロファイルを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックして、[デバイス プロファイルのタイプ (Device Profile Type)] からオプションを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。次に、[デバイス プロトコル (Device Protocol)] ドロップダウン リストからデバイス プロトコルを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 3 フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、関連項目のセクションを参照してください。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 5 [割り当て情報 (Association Information)] 領域で、[新規 DN を追加 (Add a New DN)] をクリックします。

ステップ 6 [電話番号 (Directory Number)] フィールドに電話番号を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 7 [リセット (Reset)] をクリックし、プロンプトに従います。

次の作業

[ユーザへのデバイス プロファイルの関連付け](#), (12 ページ)

関連トピック

[エクステンション モビリティのデバイス プロファイル フィールド](#), (5 ページ)

エクステンション モビリティのデバイス プロファイル フィールド

表 1: デバイス プロファイルの設定

フィールド	説明
ユーザ デバイス プロファイル情報 (User Device Profile Information)	
[製品のタイプ (Product Type)]	このフィールドには、このデバイス プロファイルが適用される製品タイプが表示されます。
デバイス プロトコル (Device Protocol)	このフィールドには、このデバイス プロファイルが適用されるデバイス プロトコルが表示されます。
デバイス プロファイル名 (Device Profile Name)	一意の名前を入力します。この名前には最大 50 文字まで使用できます。
説明	デバイス プロファイルの説明を入力します。テキストとして、この特定のユーザ デバイス プロファイルに関する記述を使用します。
ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)	<p>ユーザが保留操作を開始したときに再生する音源を指定するには、[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)] ドロップダウンリスト ボックスから音源を選択します。</p> <p>音源が選択されなかった場合、Cisco Unified Communications Manager は、デバイス プールで定義された音源を使用し、デバイス プールで音源 ID が指定されていない場合はシステム デフォルトを使用します。</p> <p>(注) [保留音オーディオソースの設定 (Music On Hold Audio Source Configuration)] ウィンドウで、音源を定義します。アクセスするには、[メディアリソース (Media Resources)] > [保留音オーディオソース (Music On Hold Audio Source)] を選択します。</p>

フィールド	説明
ユーザ ロケール (User Locale)	<p>ドロップダウンリストボックスから、電話機ユーザインターフェイスに関連付けるロケールを選択します。ユーザ ロケールは、ユーザをサポートする言語やフォントなどの一連の詳細情報を識別します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルでのみこのフィールドを使用可能にします。</p> <p>(注) ユーザ ロケールが指定されなかった場合、Cisco Unified Communications Manager はデバイス プールに関連付けられたユーザ ロケールを使用します。</p> <p>(注) 情報を英語以外の言語で (電話機上に) 表示する必要がある場合は、ユーザ ロケールを設定する前にロケール インストーラがインストールされていることを確認します。Cisco Unified Communications Manager ロケール インストーラのドキュメントを参照してください。</p>
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	<p>[電話ボタン テンプレート (Phone Button Template)] ドロップダウン リストから、電話ボタン テンプレートを選択します。</p> <p>ヒント プレゼンス モニタリングのプロファイル用に BLF/スピードダイヤルを設定する場合は、BLF/スピードダイヤル用に設定した電話ボタンテンプレートを選択します。設定を保存したら、[新規 BLF SD を追加 (Add a New BLF SD)] リンクが [関連付け情報 (Association Information)] ペインに表示されます。BLF/スピードダイヤルの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』を参照してください。</p>
[ソフトキー テンプレート (Softkey Template)]	<p>[ソフトキー テンプレート (Softkey Template)] ドロップダウン リストボックスで、表示されたリストからソフトキー テンプレートを選択します。</p>
プライバシー	<p>[プライバシー (Privacy)] ドロップダウン リストボックスから、プライバシーが必要な電話機ごとに [オン (On)] を選択します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』を参照してください。</p>

フィールド	説明
ワンボタン割り込み (Single Button Barge)	<p>ドロップダウンリスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)]: このデバイスは、ユーザがワンボタン割り込み/C 割り込み機能を使用することを許可しません。 • [割り込み (Barge)]: このオプションを選択すると、電話機の [ワンボタン割り込み (Single Button Barge)] 共有回線ボタンを押して割り込み機能を使用してコールに割り込むことができます。 • [デフォルト (Default)]: このデバイスは、サービス パラメータとデバイス プールの設定から、ワンボタン割り込み機能/C 割り込み設定を継承します。 (注) サーバパラメータとデバイス プールの設定が異なる場合は、デバイスがサービス パラメータの設定から値を継承します。 <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』を参照してください。</p>
回線をまたいで参加	<p>ドロップダウンリスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)]: このデバイスは、ユーザが複数ライン同時通話機能を使用することを許可しません。 • [オン (On)]: このデバイスは、ユーザが複数ライン同時通話することを許可します。 • [デフォルト (Default)]: このデバイスは、サービス パラメータとデバイス プールの設定から、複数ライン同時通話設定を継承します。 (注) サーバパラメータとデバイス プールの設定が異なる場合は、デバイスがサービス パラメータの設定から値を継承します。 <p>詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Administration Guide』を参照してください。</p>

フィールド	説明
<p>[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)]</p>	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : 電話がアイドル状態になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、電話のユーザは、コールを受信した回線からコールに応答します。 • [オン (On)] : 電話機がアイドル状態 (オフ フック) になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、このコールにはプライマリ回線が選択されます。他の回線のコールの呼び出し音は鳴り続けます。電話のユーザは、他の回線を選択してこれらのコールに応答する必要があります。 • [デフォルト (Default)] : Cisco Unified Communications Manager は Cisco CallManager サービスをサポートする [常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)] サービス パラメータの設定を使用します。
<p>[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)]</p>	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] : 電話がアイドル状態の場合に電話のメッセージ ボタンを押すと、電話のプライマリ回線がボイス メッセージを受信するアクティブな回線になります。 • [オフ (Off)] : 電話がアイドル状態の場合、電話のメッセージ ボタンを押すと、ボイス メッセージが設定されている回線からボイス メッセージ システムに自動でダイヤルされます。Cisco Unified Communications Manager は、常に、ボイス メッセージが設定された最初の回線を選択します。ボイスメッセージが設定されている回線が存在しない場合に電話のユーザが [メッセージ (Messages)] ボタンを押すと、プライマリ回線が使用されます。 • [デフォルト (Default)] : Cisco Unified Communications Manager は、Cisco CallManager サービスをサポートする [ボイス メッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)] サービス パラメータの設定を使用します。

フィールド	説明
プレゼンテーションインジケータを無視 (内線コールのみ) (Ignore Presentation Indicators (internal calls only))	<p>コール表示制限を設定し、内線コールに対して受信されたプレゼンテーション制限を無視するには、[プレゼンテーションインジケータを無視 (内線コールのみ) (Ignore Presentation Indicators (internal calls only))] “” チェック ボックスをオンにします。</p> <p>ヒント この設定は、トランスレーション パターン レベルで発信側回線 ID プレゼンテーションと接続先回線 ID プレゼンテーションの設定と組み合わせて使用します。これらの設定を組み合わせで使用すれば、コールごとに発信側または接続先の回線表示情報を選択的に表示またはブロックするようにコール表示制限を設定できます。コール表示制限の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』を参照してください。</p>
サイレント	<p>サイレントを有効にする場合に、このチェックボックスをオンにします。</p>
DND オプション (DND Option)	<p>電話機上で DND を有効にすると、このパラメータによって、DND 機能で着信コールをどのように処理するかを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [コール拒否 (Call Reject)]: このオプションは、着信コール情報をユーザに提示しないようにします。[DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] パラメータの設定に応じて、電話はビープを再生するか、コールの点滅通知を表示します。 • [呼出音オフ (Ringer Off)]: このオプションは、呼出音をオフにしますが、ユーザがコールを受け付けられるように、着信コール情報をデバイスに表示します。 • [共通の電話プロファイル設定を使用 (Use Common Phone Profile Setting)]: このオプションは、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの [DND オプション (DND Option)] 設定をこのデバイスで使用するよう指定します。 <p>(注) SCCP を実行している 7940/7960 電話の場合、選択できるのは [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションだけです。携帯デバイスとデュアルモード電話の場合、[コール拒否 (Call Reject)] オプションのみを選択できます。携帯デバイスまたはデュアルモード電話で [DND コール拒否 (DND Call Reject)] をアクティブにすると、デバイスにコール情報が表示されません。</p>

フィールド	説明
<p>DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)</p>	<p>DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションまたは [コール拒否 (Call Reject)] オプションを有効にした場合、このパラメータは電話でコールを表示する方法を指定します。</p> <p>ドロップダウン リストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし (None)] : このオプションは、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] ウィンドウの [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] 設定をこのデバイスで使用するよう指定します。 • [無効 (Disable)] : このオプションは、コールを通知するビープ音とフラッシュの両方を無効にしますが、DND の [呼出音オフ (Ringer Off)] オプションの場合、着信コール情報が表示されます。[DND コール拒否 (DND Call Reject)] オプションの場合、コールアラートが表示されず、デバイスに情報が送信されません。 • [ビープ音のみ (Beep Only)] : 着信コールの場合、このオプションによって、電話機でビープ音のみが再生されます。 • [フラッシュのみ (Flash Only)] : このオプションを選択した場合、着信コールがあると、電話のフラッシュアラートだけが表示されます。
<p>Extension Mobility Cross Cluster CSS</p>	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、Extension Mobility Cross Cluster 機能のこのデバイス プロファイルに使用する既存のコーリング サーチ スペース (CSS) を選択します。(新しい CSS を設定する、または、既存の CSS を変更するには、Cisco Unified Communications Manager Administration で、[コールルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] を選択します)。</p> <p>デフォルト値は [なし (None)] です。</p> <p>ホーム管理者がこの CSS を指定します。この CSS は、ユーザがこのリモート電話機にログインしたときに電話機に割り当てられるデバイス CSS として使用されます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』を参照してください。</p>
<p>拡張モジュール情報 (Expansion Module Information)</p>	

フィールド	説明
[モジュール 1 (Module 1)]	<p>拡張モジュールフィールド内の拡張モジュールドロップダウンリストから電話テンプレートを選択することにより、1つか2つの拡張モジュールをこのデバイス プロファイル用に設定できます。</p> <p>(注) 電話ボタンテンプレートフィールドの横にある [表示 (View)] ボタン リスト リンクを選択することにより、いつでも電話ボタン リストを表示できます。別のダイアログボックスがポップアップ表示され、その特定の拡張モジュールの電話ボタンが表示されます。</p> <p>該当する拡張モジュールまたは [なし (None)] を選択します。</p>
[モジュール 2 (Module 2)]	<p>該当する拡張モジュールまたは [なし (None)] を選択します。</p>
Multilevel Precedence and Preemption	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>このユーザ デバイス プロファイルが MLPP 優先コールに使用される場合は、ドロップダウン リスト ボックスから [MLPP ドメイン (MLPP Domain)] を選択します。</p> <p>(注) [MLPP ドメインの設定 (MLPP Domain Configuration)] ウィンドウで、MLPP ドメインを定義します。アクセスするには、[システム (System)] > [MLPP ドメイン (MLPP Domain)] を選択します。</p>
[MLPP 通知 (MLPP Indication)]	<p>このユーザ デバイス プロファイルが MLPP 優先コールに使用される場合は、[MLPP 通知 (MLPP Indication)] 設定をデバイス プロファイルに割り当てます。この設定は、優先トーンを再生可能なデバイスが MLPP 優先コールを発信するときにこの機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションの中からこのデバイス プロファイルに割り当てる設定を選択します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 [デフォルト (Default)]: このデバイス プロファイルは、関連するデバイスのデバイス プールからその MLPP 通知設定を継承します。 2 [オフ (Off)]: このデバイスは、MLPP 優先コールの通知を処理しません。 3 [オン (On)]: このデバイス プロファイルは、MLPP 優先コールの通知を処理します。 <p>(注) 次の設定の組み合わせを使ってデバイス プロファイルを設定しないでください。[MLPP 通知 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトがオフの場合) に設定し、[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定。</p>

フィールド	説明
<p>[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]</p>	<p>このユーザ デバイス プロファイルを MLPP 優先コールに使用する場合は、[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] 設定をデバイス プロファイルに割り当てます。この設定は、進行中のコールをプリエンプション処理可能なデバイスが MLPP 優先コールを発信するときこの機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウンリストボックスで、次のオプションの中からこのデバイス プロファイルに割り当てる設定を選択します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 [デフォルト (Default)]: このデバイス プロファイルは、関連するデバイスのデバイスプールからその MLPP プリエンプション設定を継承します。 2 [無効 (Disabled)]: このデバイスは、高優先コールの実行が必要なときに、低優先コールのプリエンプションの実行を許可しません。 3 [強制 (Forceful)]: このデバイスは、高優先コールの実行が必要なときに、低優先コールのプリエンプションの実行を許可します。 <p>(注) 次の設定の組み合わせを使ってデバイス プロファイルを設定しないでください。[MLPP 通知 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトがオフの場合) に設定し、[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定。</p>
<p>ログアウト (デフォルト) プロファイル情報 (Logged Out (Default) Profile Information)</p>	
<p>ログイン ユーザ ID (Login User Id)</p>	<p>[ログイン ユーザ ID (Login User ID)] ドロップダウン リスト ボックス から、有効なログイン ユーザ ID を選択します。</p> <p>(注) デバイス プロファイル を ログアウト プロファイル として 使用する 場合は、電話機に 関連付ける ログイン ユーザ ID を 指定 します。ユーザが この ユーザ デバイス プロファイル から ログアウト すると、電話機が自動的に この ログイン ユーザ ID に ログイン します。</p>

ユーザへのデバイス プロファイルの関連付け

ユーザが別の電話機から設定にアクセスできるように、デバイス プロファイルをユーザに関連付けます。物理デバイスを関連付けるのと同じ方法で、ユーザにユーザデバイス プロファイルを関連付けます。



ヒント

一括管理ツール (BAT) を使用して、Cisco Extension Mobility の複数のユーザ デバイス プロファイルを一度に追加および削除できます。 <http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>にある『Bulk Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。

はじめる前に

[ユーザのエクステンション モビリティ デバイス プロファイルの作成, \(4 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]で、[ユーザの管理 (User Management)] > [エンド ユーザ (End User)] を選択します。
- ステップ 2 次のいずれかの作業を実行します。
 - 既存のユーザの設定を変更するには、検索条件を入力して [検索 (Find)] をクリックし、結果のリストから既存のユーザを選択します。
 - 新しいユーザを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3 [Extension Mobility] で、作成したデバイス プロファイルを探して、それを [使用可能なプロファイル (Available Profiles)] から [制御するプロファイル (Controlled Profiles)] に移動します。
- ステップ 4 [ホーム クラスタ (Home Cluster)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

次の作業

[エクステンション モビリティへの登録, \(13 ページ\)](#)

エクステンション モビリティへの登録

エクステンション モビリティ サービスに IP 電話とデバイス プロファイルを登録して、ユーザがエクステンション モビリティにログインし、使用し、ログアウトできるようにします。

はじめる前に

[ユーザへのデバイス プロファイルの関連付け, \(12 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration で次のいずれかのタスクを実行します。

- [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択し、検索条件を指定してから [検索 (Find)] をクリックし、エクステンション モビリティに使用する電話機を選択します。
- [デバイス (Device)] > [デバイス設定 (Device Settings)] > [デバイス プロファイル (Device Profile)] を選択し、検索条件を指定してから [検索 (Find)] をクリックし、作成したデバイス プロファイルを選択します。

- ステップ 2** [関連リンク (Related Links)] ドロップダウン リストから、[サービスの登録/登録解除 (Subscribe/Unsubscribe Services)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 3** [サービスを選択 (Select a Service)] ドロップダウン リストから、[エクステンション モビリティ (Extension Mobility)] サービスを選択します。
- ステップ 4** [Next] をクリックします。
- ステップ 5** [登録 (Subscribe)] をクリックします。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックし、ポップアップ ウィンドウを閉じます。

次の作業

[クレデンシャル変更 IP 電話サービスの設定, \(14 ページ\)](#)

クレデンシャル変更 IP 電話サービスの設定

ユーザが自身の電話機で PIN を変更できるようにするには、変更クレデンシャル Cisco Unified IP Phone サービスを設定し、ユーザ、デバイス プロファイル、または IP 電話を、変更クレデンシャル電話サービスに関連付ける必要があります。

はじめる前に

[エクステンション モビリティへの登録, \(13 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [電話 サービス (Phone Services)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [サービス名 (Service Name)] フィールドに、Change Credential と入力します。
- ステップ 4** [サービス URL (Service URL)] フィールドに、次の値を入力すると、サーバがクレデンシャル変更 IP 電話サービスが稼働するサーバとなります。
http://server:8080/changecredential/ChangeCredentialServlet?device=#DEVICENAME
#
- ステップ 5** (任意) [セキュア サービス URL (Secure-Service URL)] フィールドに、次の値を入力すると、サーバがクレデンシャル変更 IP 電話サービスが稼働するサーバとなります。

https://server:8443/changecredential/ChangeCredentialServlet?device=#DEVICENAME
#

- ステップ 6 **[IP 電話サービス設定 (IP Phone Services Configuration)]** の残りのフィールドを設定し、[保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 7 Cisco Unified IP Phone をクレデンシャル変更 IP 電話サービスに登録するには、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 8 **[電話機の設定 (Phone Configuration)]** ウィンドウで、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから、[サービスの登録/登録解除 (Subscribe/Unsubscribe Services)] を選択します。
- ステップ 9 [移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 10 [サービスの選択 (Select a Service)] ドロップダウンリストから[クレデンシャル変更 IP 電話サービス (Change Credential IP phone service)] を選択します。
- ステップ 11 [Next] をクリックします。
- ステップ 12 [登録 (Subscribe)] をクリックします。
- ステップ 13 [保存 (Save)] をクリックします。

次の作業

(オプション) [Extension Mobility \(EM; エクステンション モビリティ\) のサービス パラメータの設定, \(15 ページ\)](#)

Extension Mobility (EM; エクステンション モビリティ) のサービス パラメータの設定

エクステンション モビリティの動作を変更するには、サービス パラメータを設定します。

はじめる前に

[エクステンション モビリティ サービスの有効化, \(3 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] フィールドで、Cisco Extension Mobility サービスを実行しているノードを選択します。
- ステップ 3 [サービス (Service)] フィールドで、[Cisco Extension Mobility] を選択します。
- ステップ 4 すべてのサービス パラメータを表示するには、[詳細設定 (Advanced)] をクリックします。サービス パラメータとその設定オプションの詳細については、「関連項目」の項を参照してください。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

関連トピック

[Extension Mobility サービス パラメータ, \(16 ページ\)](#)

Extension Mobility サービス パラメータ

表 2: Extension Mobility サービス パラメータ

サービス パラメータ	説明
クラスタ内最大ログイン時間の強制 (Enforce Intra-cluster Maximum Login Time)	<p>ローカルログインの最大時間を指定するには、[True]を選択します。この時間の経過後に、システムは自動的にデバイスをログアウトさせます。デフォルト設定の [False] は、ログインの最大時間が存在しないことを意味します。</p> <p>自動ログアウトを設定するには、このサービス パラメータに [True] を選択し、[クラスタ内最大ログイン時間 (Intra-cluster Maximum Login Time)] サービス パラメータにシステムの最大ログイン時間を指定する必要もあります。その後、Cisco Unified Communications Manager は、すべてのログインに対して自動ログアウト サービスを使用します。</p>
クラスタ内最大ログイン時間 (Intra-cluster Maximum Login Time)	<p>このパラメータは、ユーザがローカルにデバイスにログイン可能な最大時間 (8:00 (8 時間) や :30 (30 分) など) を設定します。</p> <p>システムは、[クラスタ内最大ログイン時間の強制 (Enforce Intra-cluster Maximum Login Time)] パラメータが [False] に設定されている場合、このパラメータを無視します。</p> <p>有効な値は HHH:MM の形式で 0:01 ~ 168:00 です。ここで、HHH は時間数を、MM は分数を表します。</p>
同時要求の最大数 (Maximum Concurrent Requests)	<p>同時に実行可能なログイン操作またはログアウト操作の最大数を指定します。この数値により、Cisco Extension Mobility サービスがシステム リソースを過剰に消費するのを防止します。デフォルト値の 5 は、ほとんどのケースで適切な値です。</p>

サービスパラメータ	説明
クラスタ内複数ログイン動作 (Intra-cluster Multiple Login Behavior)	次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [複数のログインを許可する (Multiple Logins Allowed)] : ユーザは、一度に複数のデバイスにログインできます。 • [複数のログインを許可しない (Multiple Logins Not Allowed)] : ユーザが一度ログインに成功すると、それ以降のログインの試みが失敗します。 • [自動ログアウト (Auto Logout)] : ユーザが 2 台目のデバイスにログインすると、Cisco Unified Communications Manager が自動的に 1 台目のデバイスからユーザをログアウトさせます。 EMCC では、複数のログインが常に許可されます。
英数字ユーザ ID (Alphanumeric User ID)	ユーザ ID に英数字を含めることを許可するには、[True] を選択します。[False] を選択すると、ユーザ ID には数字しか含めることができなくなります。 <p>(注) [英数字ユーザ ID (Alphanumeric User ID)]パラメータは、システム全体に適用されます。英数字ユーザ ID と数字ユーザ ID を混在させることができます。システムは、英数字キーパッドを使用して入力可能なユーザ ID しかサポートしません。大文字と小文字が区別されるユーザ ID フィールドでは、小文字を使用する必要があります。</p>
ログインした最後のユーザを記憶する (Remember the Last User Logged In)	[False] を選択した場合、システムは電話機にログインした最後のユーザを記憶しません。ユーザが一時的にしか電話機にアクセスしない場合に、このオプションを使用します。電話機にログインした最後のユーザを記憶するには、[True] を選択します。電話機に 1 人のユーザしかアクセスしない場合に、このオプションを使用します。 <p>たとえば、Cisco Extension Mobility を使用して、電話機から許可されたコールのタイプを有効化できます。ログインしていない、オフィス電話を使用しているユーザは、内線または緊急コールしか発信できません。ただし、Cisco Extension Mobility を使用してログインすると、市内、長距離、および国際コールを発信できます。このシナリオでは、電話機に定期的にログインするのはこのユーザだけです。この場合は、ログインした最後のユーザ ID を記憶するように Cisco Extension Mobility を設定することには意味があります。</p>

サービスパラメータ	説明
<p>クラスター内EM上の通話履歴の消去 (Clear Call Logs on Intra-cluster EM)</p>	<p>Cisco Extension Mobility の手動ログインまたは手動ログアウト中に通話履歴を消去するように指定するには、[True] を選択します。</p> <p>ユーザが IP フォンで Cisco Extension Mobility サービスを利用している間は、すべてのコール（発信、着信、不在）が通話履歴に記録され、IPフォンのディスプレイに表示して確認できます。プライバシーを保護するには、[通話履歴を全件消去 (Clear Call Log)] サービスパラメータを [True] に設定します。これにより、あるユーザがログアウトして、別のユーザがログインしたときに通話履歴が消去されることが保証されます。</p> <p>Extension Mobility Cross Cluster (EMCC) では、ユーザが電話機にログインまたは電話機からログアウトするたびに通話履歴が消去されます。</p> <p>(注) 通話履歴は、手動ログイン/ログアウト時のみ消去されません。Cisco Extension Mobility のログアウトが自動的にまたは手動ログアウト以外の方法で発生した場合、通話履歴は消去されません。</p>
<p>IP アドレスの検証 (Validate IP Address)</p>	<p>このパラメータは、ログインまたはログアウトを要求している送信元の IP アドレスを検証するかどうかを設定します。</p> <p>このパラメータが [True] に設定された場合は、Cisco Extension Mobility のログイン要求またはログアウト要求が発生した IP アドレスが検証され、信頼できるかどうかを確認されます。</p> <p>検証は、最初に、ログインまたはログアウトするデバイスのキャッシュに対して実行されます。</p> <p>IP アドレスがキャッシュ内または信頼された IP アドレスのリスト内で見つかった場合や IP アドレスが登録済みデバイスの場合は、デバイスがログインまたはログアウトできます。IP アドレスが見つからなかった場合は、ログインまたはログアウトの試みがブロックされます。</p> <p>このパラメータが [False] に設定された場合は、Cisco Extension Mobility のログイン要求またはログアウト要求が検証されません。</p> <p>IP アドレスの検証は、デバイスへのログインまたはデバイスからのログアウトに必要な時間に影響する可能性がありますが、無許可のログインまたはログアウトの試みを阻止してセキュリティを強化できます。この機能は、特に、リモートデバイスの別の信頼されたプロキシサーバからのログインと組み合わせて使用することをお勧めします。</p>

サービス パラメータ	説明
信頼された IP のリスト (Trusted List of IPs)	このパラメータは、テキストボックスとして表示されます (最大長は 1024 文字です)。テキストボックスには、信頼された IP アドレスまたはホスト名の文字列をセミコロンで区切って入力できます。IP アドレス範囲と正規表現はサポートされません。
プロキシを許可する (Allow Proxy)	このパラメータが [True] の場合は、Web プロキシを使用する Cisco Extension Mobility のログイン操作とログアウト操作が許可されます。 このパラメータが [False] の場合は、プロキシ経由で受信された Cisco Extension Mobility のログイン要求とログアウト要求が拒否されます。 選択した設定は、[IP アドレスの検証 (Validate IP Address)] パラメータが [True] に指定されている場合にのみ適用されます。
Extension Mobility のキャッシュ サイズ (Extension Mobility Cache Size)	このフィールドには、Cisco Extension Mobility によって維持されるデバイス キャッシュのサイズを入力します。このフィールドの最小値は 1000 で、最大値は 20000 です。デフォルト値は 10000 です。 入力した値は、[IP アドレスの検証 (Validate IP Address)] パラメータが [True] に指定されている場合にのみ適用されます。

エクステンション モビリティの連携動作と制限事項

Cisco Extension Mobility の連携動作

表 3: Cisco Extension Mobility の連携動作

機能	データのやり取り
アシスタント (Assistant)	Cisco Extension Mobility を使用するマネージャは同時に Cisco Unified Communications Manager Assistant を使用できます。マネージャは Cisco Extension Mobility を使用して Cisco Unified IP Phone にログインし、次に Cisco IP Manager Assistant サービスを選択します。Cisco IP Manager Assistant サービスが開始すると、マネージャはアシスタントと Cisco Unified Communications Manager Assistant のすべての機能 (コールフィルタリングやサイレントなど) にアクセスできます。

機能	データのやり取り
BLF プレゼンス	<p>ユーザ デバイス プロファイルに BLF/スピードダイヤル ボタンを設定すると、デバイスにログイン後、Cisco Extension Mobility をサポートする電話は、BLF/スピードダイヤル ボタンに BLF プレゼンス ステータスを表示します。</p> <p>Extension Mobility ユーザがログアウトすると、Cisco Extension Mobility をサポートする電話は、設定されているログアウトプロファイルの BLF/スピードダイヤル ボタンに BLF プレゼンス ステータスを表示します。</p>
コール表示の制限	<p>コール表示の制限を有効にした場合、Cisco Extension Mobility は通常どおり機能します。ユーザがデバイスにログインするときのコール情報の表示または制限はそのユーザが関連付けられているデバイス プロファイルにより異なります。ユーザがログアウトするときのコール情報の表示または制限は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでその電話に対して定義される設定により異なります。</p> <p>Cisco Extension Mobility でコール表示の制限を使用するには、[デバイス プロファイルの設定 (Device Profile Configuration)] ウィンドウと [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの両方で、[プレゼンテーションインジケータを無視 (内線コールのみ) (Ignore Presentation Indicators (internal calls only))] チェックボックスをオンにします。</p>
不在転送コーリングサーチスペース	<p>不在転送コーリングサーチスペース (CSS) の機能強化により、機能性を失わずに Cisco Unified Communications Manager の新しいリリースにアップグレードできます。</p> <p>[CFA CSS アクティベーションポリシー (CFA CSS Activation Policy)] サービスパラメータがこの機能強化をサポートします。[サービスパラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウで、このパラメータは次の 2 つのオプションとともに [クラスタ全体パラメータ (機能 - 転送) (Clusterwide Parameters (Feature - Forward))] セクションに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [設定済み CSS を使用 (With Configured CSS)] (デフォルト) • With Activating Device/Line CSS
サイレント	<p>Extension Mobility の場合、デバイスプロファイル設定にサイレント (DND) 着信通話アラートとサイレント ステータスが含まれます。ユーザがログインしてサイレントを有効にすると、DND 着信呼警告とサイレントステータスの設定が保存され、ユーザが再度ログインするとこれらの設定が使用されます。</p> <p>(注) Extension Mobility にログインしているユーザが DND 着信呼警告またはサイレントステータスの設定を変更しても、このアクションは実際のデバイス設定に影響しません。</p>

機能	データのやり取り
<p>インターコム</p>	<p>Cisco Extension Mobility はインターコム機能をサポートします。インターコムをサポートするために、Cisco Extension Mobility はインターコム回線用に設定されるデフォルトのデバイスを使用します。インターコム回線はデフォルトのデバイスでのみ表示されます。</p> <p>インターコム回線は、デバイスプロファイルに割り当てることができます。ユーザがデフォルトのデバイス以外のデバイスにログインしたときは、インターコム回線は表示されません。</p> <p>Cisco Extension Mobility のインターコムには次の追加の考慮事項が適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Unified Communications Manager がインターコム回線をデバイスに割り当て、デフォルトのデバイス値が空の場合、現在のデバイスがデフォルトのデバイスとして選択されます。 • AXL がプログラムでインターコム DN を割り当てる場合、Cisco Unified CM の管理を使用してデフォルトのデバイスを設定することにより、インターコム DN を個別に更新する必要があります。 • インターコム回線のインターコムデフォルトデバイスとして設定されているデバイスを削除すると、インターコムデフォルトデバイスは削除されたデバイスに設定されなくなります。
<p>Internet Protocol Version 6 (IPv6)</p>	<p>Cisco Extension Mobility は IPv4 をサポートするので、IP アドレッシングモードが IPv6 のみの電話を Cisco Extension Mobility に使用することはできません。電話で Cisco Extension Mobility を使用する場合、電話の IP アドレッシングモードに IPv4 のみまたは IPv4 と IPv6 を設定する必要があります。</p>
<p>プライム回線</p>	<p>[デバイスプロファイル (Device Profile)] または [デフォルトのデバイスプロファイル設定 (Default Device Profile Configuration)] ウィンドウの [常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)] パラメータで [オン (On)] を選択した場合、Cisco Extension Mobility ユーザは、Cisco Extension Mobility をサポートするデバイスにログイン後にこの機能を使用できます。</p>

Cisco Extension Mobility の制限

表 4 : Cisco Extension Mobility の制限

機能	制約事項
キャッシュ	Cisco Extension Mobility はすべてのログイン中のユーザ情報のキャッシュを 2 分間保持します。キャッシュに存在するユーザに関する要求が Extension Mobility に届いた場合、ユーザはキャッシュからの情報で認証されます。たとえば、ユーザがパスワードを変更してログアウトし、2 分以内に再度ログインした場合、古いパスワードと新しいパスワードの両方が認識されます。
折り返し	Cisco Extension Mobility のユーザがデバイスからログアウトすると、その Cisco Extension Mobility ユーザ用に有効になっているすべてのコールバックサービスは自動的にキャンセルされます。
文字表示	ユーザがログインするときに表示される文字は、現在の電話機のロケールによって異なります。たとえば、電話機が現在英語のロケール（電話機のログアウトプロファイルに基づく）の場合、[ユーザ ID (UserID)] には英語の文字しか入力できません。
保留復帰	Cisco Extension Mobility は保留復帰機能をサポートしていません。
IP フォン	Cisco Extension Mobility には、ログインに物理 Cisco Unified IP Phone が必要です。Cisco Extension Mobility で設定されているオフィス電話のユーザは電話機にリモート ログインすることはできません。
ロケール (Locale)	ユーザまたはプロファイルに関連付けられているユーザ ロケールがロケールまたはデバイスと異なる場合、ログインが正常に完了すると、電話機は再起動してからリセットします。この動作は、電話機設定ファイルが再作成されるために発生します。プロファイルとデバイス間のアドオンモジュールの不一致でも同じ動作が発生します。
ログアウト	Cisco Extension Mobility が停止または再起動した場合、システムはログイン間隔の時間が経過したすでにログイン中のユーザを自動的にログアウトしません。つまりユーザの自動ログアウトは 1 日 1 回のみ行われます。電話機または Cisco Unified CM の管理から手動でこのようなユーザをログアウトさせることができます。
セキュア トーン	Cisco Extension Mobility および複数ライン同時通話機能サービスは、保護対象の電話機では無効です。
ユーザ グループ	標準 EM 認証プロキシ権限のユーザ グループにユーザを追加できますが、追加されたユーザはプロキシによって認証する権限を持っていません。

エクステンションモビリティのトラブルシューティング

エクステンションモビリティのトラブルシューティング

- Cisco Extension Mobility トレース ディレクトリを設定し、次の手順を実行してデバッグ トレースを有効にします。
 - a) Cisco Unified Serviceability から [トレース (Trace)] > [トレース設定 (Trace Configuration)] を選択します。
 - b) [Server (サーバ)] ドロップダウン リストからサーバを選択します。
 - c) [設定されたサービス (Configured Services)] ドロップダウンリストから、[Cisco Extension Mobility] を選択します。
- Cisco Extension Mobility サービスの URL を正しく入力したことを確認します。URL では、小文字と大文字が区別されます。
- 設定手順をすべて適切に実行したことを確認します。
- Cisco Extension Mobility ユーザの認証で問題が発生する場合は、ユーザ ページに移動して PIN を確認します。

次の作業

上記の手順で問題が解決しない場合は、次のトラブルシューティングのトピックを参照してください。

認証エラー

問題 [エラー 201 認証エラー (Error 201 Authentication Error)] “”が電話機に表示されます。

解決法 正しいユーザ ID と PIN が入力されていることを確認する必要があります。また、ユーザ ID と PIN が正しいことをシステム管理者と一緒に確認する必要があります。

ユーザ ID または PIN が空です

問題 「エラー 202 ユーザ ID または PIN が空です (Error 202 Blank User ID or PIN)」が電話機に表示されます。

解決法 有効なユーザ ID と PIN を入力してください。

ビジー。再実行してください (Busy Please Try Again)

問題 「エラー 26 ビジー。再実行してください (Error 26 Busy Please Try Again)」が電話機に表示されます。

解決法 同時ログイン/ログアウト要求の数が [同時要求の最大数 (Maximum Concurrent requests)] サービス パラメータより多いかどうかを確認します。大きい場合は同時要求の数を小さくします。



(注) 同時ログイン/ログアウト要求の数を確認するには、Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool を使用して Extension Mobility オブジェクト内の Requests In Progress カウンタを表示します。詳細については、以下で『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool Administration Guide』を参照してください。 <http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-maintenance-guides-list.html>

Database Error

問題 “「エラー 6 データベース エラー」”が電話機に表示されます。

解決法 大量の要求が存在するかどうかを確認してください。大量の要求が存在する場合は、Extension Mobility オブジェクト カウンタの Requests In Progress カウンタに高い値が表示されます。大量の同時要求が原因で要求が拒否された場合は、Requests Throttled カウンタにも高い値が表示されま。詳細なデータベース ログを収集します。

デバイスのログオンが無効 (Dev Logon Disabled)

問題 「エラー 22 デバイスのログオンが無効 (Error 22 Dev Logon Disabled) 」が電話機に表示されます。

解決法 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウ ([デバイス (Device)] > [電話機 (Phone)]) で、[エクステンション モビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)] チェックボックスがオンになっていることを確認してください。

デバイス名が空白です

問題 「エラー 207 デバイス名が空白です (Error 207 Device Name Empty) 」 “”が電話に表示されます。

解決法 Cisco Extension Mobility に設定されている URL が正しいことを確認してください。詳細については、「関連項目」を参照してください。

関連トピック

[Cisco Extension Mobility 電話サービスの設定, \(3 ページ\)](#)

EM サービス接続エラー

問題 「“エラー 207 EM サービス接続エラー (Error 207 EM Service Connection Error) ”」が電話機に表示されます。

解決法 Cisco Unified Serviceability で、[ツール (Tools)]>[コントロールセンター - 機能 (Control Center—Feature)]を選択することにより、Cisco Extension Mobility サービスが実行されていることを確認してください。

ホストが検出できません (Host Not Found)

問題 「“ホストを検出できません (Host Not Found) ”」というエラーメッセージが電話機に表示されます。

解決法 Cisco Unified Serviceability で、[ツール (Tools)]>[コントロールセンターのネットワーク サービス (Control Center—Network Services)]を選択することにより、Cisco Tomcat サービスが実行していることを確認してください。

HTTP エラー (HTTP Error)

問題 HTTP エラー (503) が電話機に表示されます。

解決法

- [サービス (Services)] ボタンを押したときにこのエラーが表示された場合は、Cisco Unified Serviceability で、[ツール (Tools)]>[コントロールセンターのネットワーク サービス (Control Center—Network Services)]を選択することにより、Cisco IP Phone Services サービスが実行していることを確認してください。
- Extension Mobility サービスを選択したときにこのエラーが表示された場合は、Cisco Unified Serviceability で、[ツール (Tools)]>[コントロールセンターのネットワーク サービス (Control Center—Network Services)]を選択することにより、Cisco Extension Mobility Application サービスが実行していることを確認してください。

電話機のリセット

問題 ユーザのログインまたはログアウト後、再起動する代わりに電話機がリセットされます。

考えられる原因 このリセットは、ロケールの変更が原因だと考えられます。

解決法 特に対処の必要はありません。ログインするユーザまたはプロファイルに関連付けられているユーザロケールがロケールまたはデバイスと異なる場合、ログインが正常に完了すると、電話機は再起動し、次にリセットします。このパターンは、電話機設定ファイルが再作成されるために発生します。

ログイン後に電話サービスが使用できない

問題 ログイン後、電話サービスが使用できない。

考えられる原因 この問題は、電話機にユーザプロフィールがロードされたときにユーザプロフィールに関連付けられたサービスがなかったために発生しています。

解決法

- ユーザプロフィールに Cisco Extension Mobility サービスが含まれていることを確認します。
- Cisco Extension Mobility が含まれるように、ユーザがログインする電話機の設定を変更します。電話機が更新されたあと、ユーザは電話サービスにアクセスできるようになります。

ログアウト後に電話サービスが使用できない

問題 ユーザがログアウトし、電話機がデフォルト デバイス プロファイルに戻った後、電話サービスが使用できなくなる。

解決法

- [自動デバイスプロフィールと電話の設定間の同期 (Synchronization Between Auto Device Profile and Phone Configuration)] エンタープライズ パラメータが [True] に設定されていることを確認します。
- 電話機を Cisco Extension Mobility サービスに登録します。

ユーザは既にログイン済み (User Logged in Elsewhere)

問題 「エラー 25 ユーザは既にログイン済み (Error 25 User Logged in Elsewhere) 」が電話機に表示されます。

解決法 ユーザが別の電話機にログインしているかどうかを確認します。複数のログインを許可する必要がある場合は、[複数のログイン動作 (Multiple Login Behavior)] サービスパラメータが [複数のログインを許可 (Multiple Logins Allowed)] に設定されていることを確認します。

ユーザ プロファイルなし

問題 “「エラー 205 ユーザ プロファイルなし (Error 205 User Profile Absent) 」”が電話機に表示されます。

解決法 デバイス プロファイルをユーザに関連付けます。